



施設だより

ひこね市文化プラザ ☎26-8601 FAX 26-8602

5月の休館日：7月・11月・18月・25月

- 5月8日(金) 19:00~
自由 山下洋輔 ニュー・カルテット
- 5月21日(休) 19:00~
自由 増尾好秋・岡安芳明・井上陽介
ダブルギター・スーパー Trio
- 6月4日(休) 19:00~
自由 金亀亭第1回落語ライブ 桂ざこば一門会
- 6月12日(金) 19:00~
自由 ひこね音楽夜話「クラシック事始」
第2話 よーい！ハイドン、もっと
モーツァルト、だからブラームス♪
1回券 一般2,000円 18歳以下700円
- 6月20日(土) 16:30~
自由 みずほ文化センター公演
若州人形座「はなれ瞽女おりん」
- 7月12日(日) 13:00~ / 16:00~ <2回公演>
指定 ミッフィー子どもミュージカル
「ミッフィーのおたんじょうび」
2,000円 【5月10日(日)発売開始】
※5月10日は電話予約のみ
- 7月20日(月祝) 14:00~
指定 ブロードウェイミュージカル
「フロッグとトード がま君とかえる
君の春夏秋冬」
- 7月24日(金) 19:00~
自由 東京銘曲堂コンサート
- 7月29日(水) 18:30~
指定 キエフ・クラシック・バレエ
「白雪姫」全2幕

金亀亭落語塾【全3回】

自由 講師 笑福亭伯枝さん
第1回 6月21日(日) 15:00~
第2回 7月26日(日) 15:00~
第3回 8月23日(日) 15:00~
3,000円※1回だけの購入はできません
【5月2日(土)発売開始】

ひこね市民大学講座

- 第1講 7月4日(土) 14:00~
朝原宣治さん(北京オリンピック銅メダリスト)
- 第2講 7月18日(土) 14:00~
神田鯉風さん、神田陽司さん(講師)
- 第3講 9月5日(土) 14:00~
童門冬二さん(作家)
- 第4講 9月27日(日) 14:00~
枝廣淳子さん(環境ジャーナリスト)
- 第5講 10月10日(土) 14:00~
金子勝さん(慶應義塾大学経済学部教授)

彦根城博物館 ☎22-6100 FAX 22-6520

5月の休館日はありません。
※19日(火)~同21日(木)は展示替えのため、展示室を一部閉室しています。

開館時間 8:30~17:00 (入館は16:30まで)

5月22日(金)~6月23日(火)

「湖東焼絵付師 自然齋」

中山道鳥居本宿で、湖東焼制作に携わった絵付師自然齋の作品を紹介します。



▲赤絵金彩山水図酒盃 (個人蔵)

ギャラリートーク

「湖東焼絵付師 自然齋」

5月23日(土) 14:00~15:00

解説：本館学芸員 小井川 理
※事前申し込みは不要です。当日、館内講堂にお集まりください。

観覧料が必要です



直弼のころ

幕末の大老、井伊直弼(1815~1860)は、国政を担う政治家として知られる一方、茶の湯や国学、禅、居合などにひたむきに取り組む、文化人としての面をあわせ持っていました。
このコーナーでは、直弼ゆかりのさまざまな作品を集め、その人となりを紹介します。

5月20日(水)~6月22日(月)

法華法要抜書

「法花女人成仏集」 「立正安国論」などの法華宗の教義を直弼が抜き書きしたもの。



☆料金：全席自由 4,000円【好評発売中】

※1講座だけの購入はできません。
※未就学児の入場はお断りします。

託児サービス・臨時バスの運行については、公演ごとに異なります。詳しいことは、お問い合わせください

チケット・入会のお申し込み、お問い合わせは
チケットセンター ☎27-5200 (9:00~19:00)



▲写真2
▶写真1

ような形を横に連ねた模様を表し、それに挟まれた部分には、大輪の花を咲かせる菊や、柔らかな花びらを開く牡丹を描いています。手前には、大きな穴の空いた岩。写真では途切れていますが、左端には岩の上にとまる鳥の姿も見えます。絵柄は赤の濃淡で描かれ、写真で白く輪郭線のように見える部分は金色の線描が引かれています。白い地に、赤と金。華やかな作品です。写真では大きさが伝わりませんが、実物は、高さが7.5センチ、径が



小さな花鳥図

写真1
をく
だ
角
形
の
器
で
す。
筒
の
上
下
に
内
側
に
四
角
形
を
重
ね
た
模
様
と、
剣
の
先
の

3・2センチという小さなものです。茶の湯の席で茶碗の水気を拭うのに用いる、茶巾という小さな濡れ布巾を収めるための容器で、茶巾筒といえます。
茶巾筒は、ふだんから茶席で使われるわけではなく、茶室を離れてお茶を点るときなどに、茶箱や茶籠といった携帯用点茶セットに組み込まれて使われる道具の一つです。茶箱には、茶巾筒のほかにも茶碗、茶器など、さまざまな茶道具を収めます。茶道具の素材も、やきものや漆塗り、木工など多様で、茶人それぞれが自らの好みを反映させて道具を吟味し、凝った組み合わせになるものも少なくありません。
写真の茶巾筒は、井伊家に伝わった茶箱(写真2)に収められていました。赤絵で竹林七賢を描いたやきもの茶碗や、象牙の茶杓などとともに、焼き焦がして木目を際立たせた桐材の茶箱に入っています。箱を開いてみると見えないところに、華やかな花鳥図の小さな道具がひそんでいました。茶巾筒の花鳥図を描いたのは、自然齋という湖東焼の絵付師です。湖東焼

写真の作品は、テーマ展「湖東焼絵付師 自然齋」5月22日(金)~6月23日(火)で展示します。(会期中無休)

幕末の彦根に花開いたやきもの湖東焼。藩窯と民窯それぞれの職人によって支えられた活気と新鮮なきらめきは、茶の湯の伝統や美意識とも出会い、茶箱という小宇宙の中に息づいて、今に伝えられています。写真の「赤絵金彩花鳥図六角茶巾筒」は、表情豊かな彦根の文化を物語る資料と言えるでしょう。
(彦根城博物館学芸員 小井川 理)

とまきの玉手箱

博物館からのメッセージ



第153回